

名称 ゲンジン (2)

他名等 ゴマノハグサ

部位等 根

備考

学名 (科名) *Scrophularia buergeriana* Miq. (Scrophulariaceae) ゴマノハグサ科

其原植物和名等 ゴマノハグサ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

配合処方：加味温胆湯 (1 処方)

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

buergerisides A1, B1, B2 and C1, (*E*)-cinnamic acid, (*E*)-*p*-methoxycinnamic acid, (*E*)-*p*-methoxycinnamic acid methyl ester, (*E*)-*p*-coumaric acid, (*E*)-caffeic acid, (*E*)-ferulic acid and a phenylalcohol, 2-(3-hydroxy-4-methoxyphenyl)-ethanol, buergerinins F and G

主要な生理活性

消炎、治瘡薬として咽頭腫瘍、鼻炎、でき物などに用いられる。*(E)*-*p*-methoxycinnamic acid はマウスにおいて抗健忘症作用を示した。

重要文献

1) S-R. Kim, Y-C. Kim : *Phytochemistry*, **54**, 503-509 (2000)

2) S-J. Lin, S-H. Jiang, Y-M. Li, J-F. Zeng, D-Y. Zhu : *Tetrahedron Lett.*, **41**, 1069-1071 (2000)

3) S-R. Kim, S-Y. Kang, K-Y. Lee, S-H. Kim, G. J. Markelonis, T. H. Oh, Y-C. Kim : *Cognitive Brain Research*, **17**, 454-461 (2003)

4) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 480

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンチアナ

他名等 yellow gentian、gentian root

部位等 根・根茎

備考 花は「非医」

学名(科名) *Gentiana lutea* L. (Gentianaceae)リンドウ科

其原植物和名等 ゲンチアナ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 Com E

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

gentiopicroside, swertiamarin, amarogentin, gentisin, isogentisin, gentisic acid, limonene, linalool, carvacrol, *cis*-linalyl oxide, α -terpineol

主要な生理活性

苦味による食欲増進、胃液分泌と消化促進、また解熱、貧血の治療などに有効とされる。現在、苦味健胃薬の代表的な生薬で、消化機能低下、慢性胃炎などに用いられている。また神経強壮、痛み、裂傷などに効果がある。

重要文献

- 1) T. Kubota, Y. Tomita : *Bull Chem. Soc. Jpn.*, **34**, 1345 (1961)
- 2) H. Inoue, Y. Nakamura : *Chem. Pharm. Bull*, **18**, 1856 (1970)
- 3) H. Inoue et al. : *Tetrahedron Lett.*, 3221 (1967)
- 4) F. Chialva. et al. : *Z. Lebensm. -Untersxp. Forsch.*, **182**, 212 (1986)
- 5) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 405

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 2d. Contraindicated in gastric and duodenal ulcers and when gastric irritation and inflammation are present.

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局方に収載されており、ヨーロッパ等においても医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンノショウコ

他名等 ミコシグサ、タチマチグサ、ホッケソウ、イシャゴロシ、ネコグサ

部位等 地上部

備考

学名(科名) *Geranium thunbergii* Siebold et Zucc. (Geraniaceae) フウロソウ科

其原植物和名等 ゲンノショウコ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) extract : oral LD50 10 g/kg 以上, mouse, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

geraniin, quercetin, kaempferol, kaempferitrin

主要な生理活性

腸の平滑筋の緊張を増し、縦走筋の運動を著しく抑制する作用があり、心臓の搏動減少と調整作用がある。一般に大腸炎などによる下痢止め、健胃整腸剤に用いられるほか、腫れ物、しもやけの洗浄用とし、浴湯用にもする。また冷え性、高血圧予防にも用いられる。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：241

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局方に収載されており、日本において医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品と考えられる。

名称 コウブシ

他名等 香附子、サソウ、ハマスゲ、nut grass

部位等 根茎

備考

学名(科名) *Cyperus rotundus* L. (Cyperaceae) カヤツリグサ科

其原植物和名等 ハマスゲ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：香砂平胃散、香砂養胃湯、香砂六君子湯、香蘇散、川弓茶調散、二朮湯、女神散等（15 処方）

毒性データ（LD50 等）extract : i.p. LD50 50 mg/kg, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

α -cyperone, cyperotundone, cyperolone, cyperol, isocyperol, sugetriol, sugeinol, kobusone, isokobusone, patchchoulenyl acetate, sugeonyl acetate などのセスキテルペノイド、oleanolic acid, 3-O-(2-rhamnosylglucosyl)-oleanolic acid などのトリテルペノイド

主要な生理活性

鎮痛作用及び子宮筋を弛緩させる作用が知られる。月経不順、生理痛、更年期障害、ヒステリー、慢性胃炎、十二指腸潰瘍、神経性胃炎などに広く用いられる。月経過多のものには用いてはならないとされている。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：599

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 1.

評価:A

エキスの LD50 は i.p. 50 mg/kg, rat であり、劇薬相当であることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウフン

他名等 コマントウ、コマンキョウ、鉤吻、冶葛、胡滿藤、胡滿強

部位等 全草（生薬としては根及び根皮）

備考 根にアルカロイドを含有する。有毒

学名（科名） *Gelsemium elegans* Benth. (Loganiaceae) マチン科

其原植物和名等 コマントウ

医薬品として使用実態があるか Yes

中国において根及び根皮をコウフンと称し薬用に用いる。リウマチの痛み、湿疹、でき物、打ち身などに外用される。

毒性データ（LD50等） extract : i.p. LD50 25 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

elegansamine, gelsamydine, gelselegine, gelsemamide, gelsemine, gelsemoxonine, humantenirine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

elegansamine, gelsamydine, gelselegine, gelsemamide, gelsemine, gelsemoxonine, humantenirine

主要な生理活性

根、茎、葉にはいずれも劇毒がある。中毒のおもな症状は呼吸麻痺で、軽度の場合は呼吸困難、重度の場合は呼吸停止で死に至る。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：401

2) 中薬大辞典第2巻：753

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:A

エキスのLD50はi.p. 25 mg/kg, mouseであり、劇薬相当であることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウボク

他名等 ホウノキ、ホオガシワ、ホオガシワノキ、ウマノベロ

部位等 樹皮

備考

学名(科名) *Magnolia obovata* Thunb. (Magnoliaceae) モクレン科

其原植物和名等 ホウノキ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：胃苓湯、香砂平胃散、香砂養胃湯、五積散、神秘湯、桂枝加厚朴杏仁湯、柴朴湯等(25
処方)

毒性データ(LD50等) corytuberine : i. p. LD50 19.6 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

magnoflorine, magnocurarine, liriodenine, obovanine, corytuberine, anonaine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

α , β , γ -eudesmol, magnonol, honokiol, ovobatal, magnoflorine, magnocurarine, liriodenine, obovanine, corytuberine, anonaine

主要な生理活性

マグノフロリン、サリシフォリン、マグノクラリンにクラレ様の作用が認められたが、d-ツボクラリンに比べると極めて弱い。また神経節遮断作用、抗ポリカルピン作用、アドレナリン増強作用も認められる。エーテルエキスには中枢抑制作用、筋弛緩作用、各種痙攣薬に対する拮抗作用がある。ワコウボクは収れん、健胃、利尿、去痰薬として腹部膨満、腹痛、下痢、吐き気などに用いられる。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：69

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:A

含有される corytuberine の LD50 は i.p. 19.6 mg/kg, mouse であり、劇薬相当であることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウホン（1）

他名等 カラコウホン

部位等 根・根茎

備考 ワコウホンとしてヤブニンジン *Osmorhiza aristata* (Thunb.) Makino et Yabe があるが、現在ではほとんど生産されていない。

学名（科名） *Ligusticum sinense* Oliv. (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 リグステイクム・シネンセ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

鎮痛、鎮痙に、コウホン1日量3~9gを煎じて服用する。この煎液で皮膚病の患部を洗うかまたは粉末とし、患部に塗布するとよい。配合処方：秦九姜活湯、清上蜀痛湯（2処方）

毒性データ（LD50等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

bisabolangelone, ligustiphenol, butylidenphtalide, cnidilide

主要な生理活性

ブチリデンフタライド、クニジライドなどには、抗炎症、通経、鎮痙などの作用があるといわれる。コウホンの水製エキスは数種の皮膚真菌に対し、比較的強い、抗菌作用が認められる。コウホンは鎮痛、鎮痙薬として頭痛、腰痛、寒湿による腹痛、下痢、婦人病の諸痛に用いられるほか、疥癬などの皮膚病に外用する。

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：365

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：class 1.

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 コウホン（2）

他名等 リョウコウホン（遼蒿本）

部位等 根・根茎

備考

学名・(科名) *Ligusticum jeholense* (Nakai et Kitag.) Nakai et Kitag. (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 ムレイセンキュウ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

頭痛や鎮静薬には、コウホン1日3~5gに水400mLを加え半量まで煎じ、1日3回に分け服用する。

配合処方：秦九姜活湯、清上蜀痛湯（2処方）

毒性データ（LD50等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

butylidenphtalide, cnidilide, neoligustilide

主要な生理活性

鎮痛、鎮痙薬として頭痛、腰痛、婦人病、腹痛、泄瀉のほか、疥癬などの皮膚病に用いる。

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：364

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に記載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 コウホン (3)

他名等 コウホン

部位等 根・根茎

備考

学名 (科名) *Nothosmyrnum japonicum* Miq. (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 カサモチ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

頭痛、腹痛、歯痛などに、1日量10gをとり、水で煎じて服用する。

配合処方：秦九姜活湯、清上蜀痛湯 (2処方)

毒性データ (LD50等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油約1.3%が含まれ、主成分はノトスミノール、アネトールなどであるといわれるが詳細は不明である。

主要な生理活性

カサモチ精油は、中枢神経に対して弱い麻痺を起こさせる作用があるとされ、頭痛、腹痛、歯痛などの鎮痛、鎮静薬に用いられる。

重要文献

1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：365

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 コウホン（４）

他名等 ワコウホン

部位等 根・根茎

備考

学名（科名） *Osmorhiza aristata* (Thunb.) Makino et Yabe (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 ヤブニンジン

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

配合処方：秦九姜活湯、清上蜀痛湯（２処方）

毒性データ（LD50等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：365

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 コオウレン

他名等 胡黄連

部位等 茎・根茎

備考

学名(科名) *Picrorhiza kurrooa* Royle ex Benth. (Scrophulariaceae) ゴマノハグサ科

其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes

インドのカシミールからシッキムに至る標高3000~5000mのヒマラヤ山系に分布し、健胃、緩下、駆虫に用いる。

毒性データ (LD50等) extract : oral LD50 1288 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

catalpol derivatives, acetovanillone, picrorhizin, kutikin, cucurbitacin derivatives, pikroside

主要な生理活性

未詳。臨床面ではコオウレン、オウゴン、キンギンカ、カンゾウ、ハクシャクを配合した製剤は、子供の急性細菌性痢疾(特に赤痢)の病状を顕著に改善した。解熱、解毒、鎮静、健胃、殺虫薬として、小児の驚疳、泄痢、黄疸、痔疾、眼の炎症などに応用する。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：118

2)和漢薬百科図鑑 [1]：160

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価：E

日本において医薬品としての使用実態はなく、エキスのLD50が1288 mg/kg (oral, mouse)であることから食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

名称 ゴールデンシール

他名等 ヒドラスチス、カナダヒドラスチス

部位等 根茎

備考

学名(科名) *Hydrastis canadensis* L. (Ranunculaceae) キンポウゲ科

其原植物和名等 ヒドラスチス

医薬品として使用実態があるか Yes

北米のインディアンが使用した重要な民間薬である。ヒドラスチス根 2g を水で煎じて服用する。また、塩酸ヒドラスチンを抽出し、これを子宮収縮薬として使用する。

毒性データ (LD50 等) hydrastinine : i. p. LD50 100 mg/kg, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

canadoline, canadine, hydrastine, isocorypalmine, berberastine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

hycanadic acid, canadoline, canadine, hydrastine, isocorypalmine, berberastine

主要な生理活性

苦味健胃、粘膜の炎症に対する鎮痙、血管収縮、子宮収縮。ヒドラスチンは生体内でヒドラスチニン、オピアン酸に酸化分解され、ヒドラスチニンは血管収縮作用があり、あらゆる止血に効力を示す。とくに鼻血や子宮の出血には著効を示す。腸および胃のカタル、鼻カタル、膣、子宮、泌尿器粘膜の炎症治療や殺菌性苦味健胃薬として用いる。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：99

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 2b. Not to be used during pregnancy.

Canadian regulations do not allow goldenseal as a non-medicinal ingredient for oral use products.

評価:A

hydrastinine の LD50 は i.p. 100 mg/kg, mouse であり、劇薬相当であることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コケモモヨウ

他名等 コケモモ

部位等 葉

備考 果実は「非医」

学名(科名) *Vaccinium vitis-idaea* L. (Ericaceae) ツツジ科

其原植物和名等 コケモモ

医薬品として使用実態があるか 不明

尿道痛などの場合、乾燥葉一日量10～15gに300mLの水を加え、半量になるまで煎じて服用する。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

arbutin derivatives, isoquercitrin, hyperin, tannins

主要な生理活性

アルブチンは加水分解によってヒドロキノンとブドウ糖になり、ヒドロキノンが腎細胞を刺激し、利尿、防腐作用を示す。尿道防腐、利尿剤として用いられるほか、薬酒にして疲労回復の効果がある。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：383

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:D

安全性に関するデータが認められないため、現在のところ判断データがないと考えられる。

No.	名称	地名	薬用部位等	備考	学名	科名	起源植物和名等	医薬品としての使用形態	アルカロイド、毒薬副薬指定成分	薬源・向精神薬・覚せい剤作用	毒性データ	B/S handbook	評価	評価理由	
1	アオダマ	トオリコ	樹皮		① <i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz., ② <i>F. japonica</i> Blume	Oleaceae, モクセイ科	アオダマ, コバノトネリコ, アオダマ	○			② LD50 = 1620 mg/kg (i.v., rat), 5400 mg/kg (s.c., rat)	B	B	日本で民間薬として長く使われており、同属の <i>F. chinensis</i> (中国産) は中薬である。また、食経薬は知られていない。以上のことから、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほどの毒性が強いわけではない。	
2	アラビアチャノキ		葉		<i>Catha edulis</i> (Vahl) Forsk. ex Endl.	Celastraceae, ニシキギ科	チャノク (khai, エチオピア), カート (イエメン), アラビア	×		Cathine, Cathinone		A	A	アンフェタミンと同様の覚醒作用を持つ catechinone が含まれている。	
3	アラビアモツヤク (アラビア薬)		全木		<i>Commiphora abyssinica</i> Engl.	Burseraceae, カンラン科	ミルバナキ	○				A	A	ミルバナに禁忌がある。ミルバナの原植物は <i>Commiphora</i> sp. であり、本種も含まれると考えられるため、専ら医薬品としておくべきである。	
4	アルニカ		全草		<i>Arnica montana</i> L.	Compositae, キク科	アルニカ	Com E (Arnica flower)			精油は LD50 = 31 mg/kg (i.p., mouse), 123 mg/kg (p.o., mouse)	Class 2d	A	A	1) Com E に記載されており、また、ヨーロッパで長く医薬品としての使用実態がある。2) 厚膜を起すなど、皮膚への副作用が強い。3) アリカ及びカナダで使用制限がある。
5	アロエ (蘆薈)		葉の液汁	根・葉肉は「食」、キダチアロエの葉は「食」	① <i>Aloe ferox</i> Mill., ② <i>A. vera</i> L., ③ <i>A. barbadensis</i> Mill.	Liliaceae, ニリ科	① ケーアアロエ, ② キュラナーアロエ	① 両方 USP, Com E ② USP, Com E			② LD50 = 250 mg/kg (i.p., mouse)	Class 2b, 2c, 2d	A	A	葉肉は食用であるが、葉の液汁は医薬品製造のために採取しているものであり、医薬品である。
6	イチイ (一位)		枝・心材・葉	果実は「食」	<i>Taxus cuspidata</i> Siebold et Zucc.	Taxaceae, イチイ科	イチイ, アラバギ, オンコ	○			タキノール: LD50 9 mg/kg (oral, dog)		A	A	Paclitaxel など、毒性の高い化合物が含まれているため。
7	イヌサフラン		種子		<i>Colchicum autumnale</i> L.	Liliaceae, ニリ科	イヌサフラン	○			Highly toxic, with a lethal dose of 10 mg in humans		A	A	毒性の高いコルヒチンが含有されるため。
8	イリス		根茎		① <i>Iris germanica</i> L. var. <i>floridina</i> Dykes, ② <i>I. germanica</i> L., ③ <i>I. pallida</i> Lam.	Iridaceae, イリス科	① ニオアイヤム, シロバナイリス, ② ムラサキイリス, ③ シンボリイリス	○			① ② LD50 = 500 mg/kg (i.p., rat)	Class 1	B	B	医薬品としての使用実態があり、また、食経薬は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほどの毒性が強いわけではない。
9	イレイセン (威靈仙)		根・根茎	葉は「食」	<i>Clematis chinensis</i> Osbeck, <i>C. hexapetala</i> , <i>C. manshurica</i>	Ranunculaceae, キンボク科	① シナボタン, ② サキシマボタン, ③ イトクサボタン, ④ タチセンニンソウ, ⑤ コウライセンニンソウ	○			anemone: LD50 i.p. in mice: 150 mg/kg	① Class 1, ② ③ は記載無し	A	A	基原植物3種のうち <i>C. chinensis</i> と <i>C. hexapetala</i> にアネモニンの含有が確認されており、また、 <i>C. discolorifolia</i> , <i>C. recta</i> , <i>C. hirsutissima</i> などにもアネモニンの含有が知られている。近縁種である <i>C. manshurica</i> にも含有されていると考えられるため。
10	インテンコウ (茵陳蒿)		花穂・帯花全草		<i>Artemisia capillaris</i> Thunb.	Compositae, キク科	カラヨモギ (ネズミヨモギ, カリグサ)	局方				Class 2b	B	B	局方に記載されており、使用実態があり、食経薬は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほどの毒性が強いわけではない。

11	インドサルサ	Indian sarsaparilla hemidesmus	根					Asclepiadaceae	インドジャボク (R. aurifolia serpentina)	reserpine (南方), rescinamine, deserpidine, ajmaline (南方), 他多数			Class 4 (insufficient (data))	D	データ不足だが、浴用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、神経痛も鎮痛されておらず、積極的に食品と判断する材料もない。
12	インドジャボク属<印度蛇木属>	インドジャボク属・ラウフォルニア属	根・根茎					Apocynaceae キョウチクトウ科	Rauwolfia serpentina, R. heterophylla, R. vomitoria, R. caffra, R. obtusa, R. semperflorens, R. natalensis				A	レセルピン等毒性の高いアルカロイドを含む(アルカロイド混合物で経ロラットLD50=183mg/kg/劇薬)。	
13	インドボダイジュ<印度香樹樹皮>	注)ボダイジュは、シナノキ科シナンキ	樹皮					クワ科	Ficus religiosa Morvor thumbergianum Nakai				E	LD50 i.p. mouse >500mg/kgで二次代謝物の安全性も問題なさそうであるが、民間薬として外用剤として用いられたり、皮なめしや染料として使用されるなど、積極的に食品と判断する材料もない。	
14	インヨウカク<淫羊藿>		全草					Berberidaceae メギ科	イカリソウ、キバナイカリソウ、ホザキイカリソウ	magnoflorine		Class 2d	A	南方収載医薬品である。また、アルカロイドとして magnoflorine を含む。さらに BSH で、薬剤使用の禁止や副作用に関する記載がある。	
15	ウマノスズクサ属<馬鈴薯属>		全草					Aristolochiaceae ウマノスズクサ科	(細辛) Asiarum, ウスバサイシン、ウマノスズクサ (Aristolochia spp., 馬兜鈴)	A. debilis: ウマノスズクサ Aristolochic acid A. aristolochiam, cyclanoline 等, A. contorta: マルバウマノスズクサ, Aristolochic acid is present in many species of Aristolochia	R. indica, TDI0 52.5mg/kg oral mouse, LD50 373 mg/kg i.p. mouse, A. moupinensis LD50 3560 mg/kg oral mouse 他多数, Recent concerns regarding weight loss preparations which contain herbs high in aristolochic acid have raised the question of the potential for kidney damage in human.	Class 2b	A	発がん性が疑われ、腎臓障害をおこす aristolochic acid を含む (herb: 0.03-0.3%, root 0.4-1.1%)	
16	ウヤク<烏薬>		根					Lauraceae クスノキ科	テンダイウヤク	alkaloids from -- J. Nat. Prod. 47, 1963 (1984) boldine, (+)-reticuline LD50: mouse, i.p. 56 mg/kg, rat, i.p. 216 mg/kg	同属植物 Lindera melastomacea, Lindera griffithii (根以外) LD50: 121 mg/kg i.p. mouse	A	南方収載医薬品であり、劇薬である (+)-reticuline LD50: mouse, i.p. 56 mg/kg, rat) を含む。		

17	クマコケモモ Uva Ursi Leaf (英名)	クマコケモモ	葉	花は「食」			Ericaceae ツツジ科	Arctostaphylos uva-ursi (L.) Spreng.		局方 Com E	不明	不明	RTECS, Mutation Research :DNA repair作用(Bacillus subtilis, 100g/L)	2b: not to be used during pregnancy, 2d: other specific restrictions as noted	B	局方収載医薬品であり、ComEにも記載され、BSHに禁忌が記載されている。
18	ウンカワボ	根					Geraniaceae アワロン科	<i>Pelargonium reniforme</i> /Pelargonium sidoides <i>Rosa polyantha</i> S. et Z. var. genuina, <i>Rosa multiflora</i> Thunb. ex Murray, <i>Rosa wichuraiana</i> Crep.	Com E ドイツで医薬品として申請中	Com E	シユロペの商品は、48.5ml/kg		シユロペの商品は、48.5ml/kg		B	ComEに記載され、ドイツで医薬品として申請中、医薬品を登録したタアアナリシスの文献がある。
19	エイジンク(薔薇)	ノイバラ	果実・傍果				Rosaceae バラ科		局方	局方	不明	不明	LD50 i.p. mouse 127g/kg (root extract)		B or E	局方収載医薬品であるが、安全性に問題がある成分の含有は報告されていない。
20	エニシダク(金雀枝)	枝・葉	花は「食」				Leguminosae マメ科	<i>Cytisus scoparius</i> (L.) Link	○ 心臓疾患薬: 硫酸スバルデルイン(日本全薬)	○	不明	不明	1g/kg i.p. mouse sparteine; i.p. 18 mg/kg mouse	Class 3	A	心臓疾患薬: 硫酸スバルデルイン(日本全薬)の主成分 sparteine (i.p. LD50=18 mg/kg mouse) の quinolizidine alkaloid)を含む。また、BSH calis 3 で、要指示薬相当。
21	エンゴサク(延胡索)	塊茎					Papaveraceae ケン科	① <i>Corydalis turtschaninovi</i> Bess. F. ② <i>Yonhusuo</i> Y. H. Chou et C. C. Hsu	局方	局方	不明	不明	①記載なし ②2b	A	アルカロイド成分を含有しているため安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
22	エンジュ	カイカ、カイサク、キアジ(黄楳)	葉・サヤは「食」				Leguminosae マメ科	<i>Sophora japonica</i> L.	局外生規	局外生規					B	アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載されていることから専ら医薬品と考えられる。
23	オウゴン	white mallow	根・葉				Malvaceae アオイ科	<i>Sida cordifolia</i> L.	X	X					A	製剤原料成分を含有し、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

24	オウカボ	キンゴシカ	全草		<i>Sida rhombifolia</i> L.	Malvaceae アオイ科	キンゴシカ	X		ephedrine, N- pseudoephedrine, methylephedrine, methylephedrine ethyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone	ephedrine(寛 麻精原料)			A	寛麻精原料成分を含有し、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
25	オウギ(黄耆)	キバナオウギ、モウコオウギ(ナイモウオウギ)	根	葉・葉は「食」	<i>Astragalus membranaceus</i> (Fisch. ex Link) Bunge, <i>Astragalus manschuricus</i> Busse	Leguminosae マメ科	キバナオウギ	局方		l-carnavamine, g-aminobutyric acid (韓国産オウギ)		580 mg/kg mouse	class 1	B	アルカロイド等は含有していないが、局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
26	オウゴン(黄芩)	コガネバナ、コガネヤナギ	周放を除いた根	葉・葉は「食」	<i>Scutellaria baicalensis</i> Georgi	Labiatae シン科	コガネバナ	局方					class 1	B	アルカロイド等は含有していないが、局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
27	オウバク(黄柏)	キハダ	周放を除いた樹皮	葉・葉は「食」	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr. <i>Phellodendron chinense</i> Schneider	Rutaceae ミカン科	キハダ	局方		berberine, palmatine, magnoflorine, phellodendrine, isoeorhizine			class 2b	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
28	オウヒ(椒皮)	椒皮	周放を除いた樹皮		<i>Prunus jamosakura</i> Sieb. ex Koitz. ① <i>Coptis japonica</i> (Thunb.) Makino, ② <i>Coptis chinensis</i> Franchet, ③ <i>Coptis deltoidea</i> C. Y. Cheng et Hsiao 又は <i>Coptis tezia</i> Wallich	Rosaceae バラ科	ヤマザクラ	局外生薬 配合処方、十味散(漢方)						B	アルカロイド等は含有していないが、局外生薬収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
29	オウレン(黄連)	キクバオウレン	根をほとんど除いた根茎	葉は「食」	① <i>Coptis japonica</i> (Thunb.) Makino, ② <i>Coptis chinensis</i> Franchet, ③ <i>Coptis deltoidea</i> C. Y. Cheng et Hsiao 又は <i>Coptis tezia</i> Wallich	Ranunculaceae キンポウゲ科	オウレン	局方		berberine, palmatine, jatrorrhizine, coptisine, worenine, magnoflorine			① 記載なし ② 2b	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
30	オンダ	結節、メナム、Male Fern	根茎・葉茎		① <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai, ② <i>D. filix-mas</i> (L.) Schott	Aspidiaceae オンダ科	オンダ	Com E				190.5 mg/kg ip, 853.7 mg/kg po.	① 記載なし ② 2a, 2b, 2c, 3	A	Commission Eにおいてオンダは駆虫作用とともに強い補助毒性を有し、経口摂取による中等症状も報告されており、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
31	オノニス	根・根茎			<i>Ononis spinosa</i> L.	Leguminosae マメ科	オノニス、Prickly Restharrow (英)	○ Com E						B	根は食材としての食経験がなく、専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。
32	オモト	根茎			<i>Rubus japonica</i> Rath	Liliaceae ユリ科	オモト	○ 万年青根(強心薬)						A	強性の強い強心配糖体rhodexin Aを含む。
33	オンジ	イトヒメハギ	根		<i>Polygala tenuifolia</i> Willdenow	Polygalaceae ヒメハギ科	オンジ(イトヒメハギ)	局方 Com E					Class 2d	B	局方に収載されている。しかし、潰瘍と胃炎に禁忌があり、同属植物に劇物podophyllotoxin (100 mg/kg, mouse, oral)の含有が知られているもの、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

34	カインウク	カインウク海葱属		鱗茎	カインウク海葱の全薬は「非医」	① <i>Urginea L.</i> (U. maritima Baker etc.) ② <i>U. depressa</i>	Liliaceae ユリ科	Squill, Sea-onion	Com E	①Scillaren A and scilliroside ②hellebrin	scillaren A: LD50 intravenously in cats 0.143 mg/kg body-weight scilliroside: LD50 orally in male rats 0.7 mg/kg body-weight hellebrin: LD50 orally in guinea-pigs 0.85 micromol/kg body-weight i.e. 0.62 mg/kg body-weight	A	scillirosideなど有毒なブファジェニクリド(強心配糖体)類を含む。
35	カイトヒ		樹皮			<i>Erythrina indica</i> Lam., <i>E. variegata L.</i>	Leguminosae マメ科	デヒゴ	○	erysopine, erythraline, erysodine, erysotrine	erysopine: LD50 = 18 mg/kg (mouse, oral) erythraline: LD50 = 80 mg/kg (mouse, oral) erysodine: LD50 = 155 mg/kg (mouse, oral)	A	erythralineなど有毒なアルカロイドを含む。
36	カガミグサ		根			<i>Ampelopsis japonica</i> Makino	Vitaceae ブドウ科	ビヤクレン、ヤマカガミ	○			E	わが国では使用実効がなく、毒性を示すデータがない。ただし、生薬白蘞の基原植物は中国で産出があるため、今回の措置はあくまで植物カガミグサのみに関するものであることに留意すべきである。
37	カゴソウ		全草	クツボグサ		<i>Prunella vulgaris</i> Liane var. <i>lilacina</i> Nakai	Labiatae シソ科	クツボグサ	局方			B	医薬品としての使用実効があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。
38	カシ		果実	ミロバラン		<i>Terminalia chebura</i> Retz.	Combretaceae シクンニン科	ミロバラン(ミロバランノキ)	局外生薬		LD50 = 175 mg/kg (mouse, i.p.)	C	緩下剤としての作用があることが知られており、sennoside Aの含有が明らかになっている。しかし、sennoside Aの含量については報告がない。sennosidesを含むする品目の食薬区分はその含量により判断されるべきであるから、今後の検射が必要である。
39	カシユウ		塊根	ツルドクダミ	薬・薬は「非医」	① <i>Polygonum multiflorum</i> Thunb. ② <i>Polygonum aviculare</i>	Polygonaceae タデ科	ツルドクダミ	①局方 ②Com E			B	局方に収載されているなど医薬品としての使用実効があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。
40	カスカラサガラダ		樹皮			<i>Rhamnus purshiana</i> De Candolle	Rhamnaceae クロウメモドキ科	カスカラサガラダ (Cascara Sagrada)	○Com E			A	瀉下作用を持つZanthrone誘導体が5%以上含有されている。
41	カッコウ		地上部	カアミドリノバ(チヨ)		<i>Agastache rugosa</i> (Fisch. et Mey.) O. Kuntze (カアミドリノバ) <i>Pogostemon cablin</i> Benth. (バチヨ)	Labiatae シソ科		局外生薬			B	わが国で医薬品としての使用実効があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。
42	カッコン		根	クズ	種子・葉・花・クズ薬効は「非医」	<i>Pueraria lobata</i> Ohwi	Leguminosae マメ科	クズ	局方			B	わが国で医薬品としての使用実効があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

キササゲ	キササゲ	果実	アメリカキササゲ, <i>Catalpa americana</i>	<i>Catalpa ovata</i> G. Don	Signoniaceae ノウゼンカズラ科	キササゲ(周方), シジツ	周方		C. longissima LD10 10g/kg i.p. mouse	B	周方取載医薬品
キササゲ											
キッピ(楳皮)	楳皮	果皮	葉は「食」国内でキッピとして流通しているのは, <i>C. reticulata sinensis</i> , <i>C. reticulata</i> 属及び同類	<i>Citrus tachibana</i> Tanaka	Rutaceae ミカン科	タチバナ	高外生果			E	特に問題がある成分も含まれておらずまた、国内でキッピとして流通しているものは、 <i>Citrus tachibana</i> ではない。
キナ		樹皮・樹皮		<i>Cinchona succirubra</i> Pav. et Klorasch, C. ledgeriana Moens	Rubiaceae アカネ科	cinchona bark (英名)	Com E	アルカロイド総量 6-15% キニーネ(周), キニジン(周), シンコニジン(周), シンコニン	115 mg/kg, mice (i.p.)	A	医療用重要なアルカロイド(キニーネ(周)、キニジン(周)、シンコニジン(周))を多量(6-15%)を含む。
キョウカヅ(莞活)	莞活	根・根茎		<i>Noopterygium incisum</i> K. C. Ting ex H. T. Chang	Umbelliferae セリ科		周方(14周第一追補)		LD50 2830 mg/kg oral mouse	A	周方取載医薬品であり、女性ホルモンの作用をもつpregnenone(TDLO, 20 mg/kg)を比較的少量も含む。
キョウニン(杏仁)		種子	カンキョウニンは「食」	<i>Prunus armeniaca</i> L.	Rosaceae バラ科	ホンアムズ アムズ	周方	Prunasin (Cyanogenic glycoside) Reproductive effects, oral, hamster; [TDLo 177 mg/kg/BD pregamydalin]	TDLo 300mg/kg woman, oral	A	周方取載医薬品であり、青酸配糖体(Prunasin)を含むこと及び標榜示医薬品に相当するESHでの使用上の注意。
キンリュウカ(金龍花)	ストロファンツス	種子・木部		<i>Strophanthus candidus</i> Kurz, S. granus, S. preussii	Apocynaceae キョウデナトウ科	ヤギン/キョウウチク トウ		strophanthidin cat LD100 0.337 mg/kg i.v. strophanthin rat, i.v. LD50, 15mg/kg 強心配糖体		A	劇薬相当の活性を持つ強心配糖体及びアグリコン(strophanthidin: cat LD100=0.337 mg/kg i.v.; strophanthin: rat i.v. LD50=15mg/kg)を含む。
グアンチンガ		葉		<i>Casualia sylvestris</i>	Flacourtiaceae イイギリ科					A	類縁の高湿性植物から, podophyllotoxin (抗癌性腫瘍剤, 生薬ポドフィロムの活性成分) 配糖体が必要な量の量産されしていること, もともと, 抗腫瘍活性がある植物であること, エタノール抽出液は, マウスのSarcoma 180腫瘍水ガンにたいし, 100mg/kg/dayのdoseで強い活性(87%阻害)をもたらすこと, 腫瘍された成分の多くは, Chinese hamster のlung cell (V-79 cell) に対して, LD50が1 μM以下の強い活性を示していることから, H14年11月に専ら医薬品と判断された。

59	クジン<薯蓣>	クララ	根	生薬名	Sophora flavescens Aiton	Leguminosae マメ科	クララ	局方	matrine aminothamnine (Quinolizidine alkaloid) 18 mg/kg, mice, i.p. oxymatrine, sophoranol, anagyrine, methycystisine, baptifoline, sophoracarpine	i.p. mouse LD50 30 mg/kg	Class I	A	局方収載医薬品であり、有毒アルカロイド(matine aminothamnine, Quinolizidine alkaloid, LD50=18 mg/kg, mice, i.p.)を含む
60	クスノハガシ<ワシ>科 <樟葉 相>	樹皮	樹皮	果実の表皮 に生じた腺 毛、葉毛から カマラ(駆虫 剤、小腸薬 輸入承認あ り)がとれる。	Mallotus philippinensis (Lam.) Muell. Arg.	Euphorbiaceae トウダイグサ科	×	×		oral, rat, TDLO 1.6g/kg & pre, i.p. mouse LD > 1g/kg	C	C	忌除剤だが、アルカロイドが入っていないかどうか の確証がない。
61	ガラヒオカラ	サウサップ、ト グハム、レイ シ、オランダ リアン	種子	果実は「食」	Annona muricata	Annonaceae パンシレイシ科	トグハム、レイシ	×	annonurcin A and B (cyclic peptide) annonurcin (benzylisoquinoli n type)	extract, i. p. LD50 178 mg/kg, mouse	A	A	アルカロイド成分を含有しているため安全性に充 分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
62	グリアオニア・シニア シニア	種子	種子		Griffonia simplicifolia	Leguminosae マメ科	グリアオニア・シ ニア	×	5-hydroxytrypto phan, griffonin	5-hydroxytryptophan : 243mg/kg (LD50, rat, oral)	A	A	5-hydroxytryptophanのLD50が劇薬相当のため安 全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考 えらる。
63	ケイガイ<蘭茶>	葉、花、ア リ	全草		Schizonepeta tenusifolia (Benth.) Brq.	Labiatae シソ科	ケイガイ	局方	morphine, thebaine, codeine, papaverine, noscapine, protopine, cryptopine		B	B	アルカロイド等は含有しているが、局方収載生 薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品 と考えられる。
64	ケン<茶子>	opium poppy, ア シ	全草(葉芽 防止処置さ れた種子、 種子相は除 く)	葉芽防止処 置された種 子、種子相は 「食」	Papaver somniferum L.	Papaveraceae ケシ科	ケン	局方	morphine, thebaine, codeine (解 薬)		A	A	麻薬成分を含有し、安全性に充分な配慮が必要 であり、専ら医薬品と考えられる。
65	ケンゴシ<薬牛子>	薬牛子、ガ シ	種子	葉、花は「非 医」	Pharbitis nil (L.) Choisy	Convolvulaceae ヒルガオ科	アサゴホ	局方			A	A	糖脂配糖体のpharbitinは鎮下作用があり、安全性 に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えら れる。
66	ケンジン<玄参>	ゴマノハグサ	根	葉、花は「食」	Scrophularia ningpoensis Hemsl., Scrophularia buergiana Miq.	Scrophulariaceae ゴマノハグサ 科	①スクロフリア ニンポエシンス ②ゴマノハグサ	①局方 ②局外生規			B	B	アルカロイド等の成分は含有されていないが、局 外生規に収載され、漢方処方にも配合されている ことから専ら医薬品と考えられる。
67	ゲンチアナ	yellow gentian, gentian root	根、根茎	花は「食」	Gentiana lutea L.	Gentianaceae リンドウ科	ゲンチアナ	局方			B	B	アルカロイド等の成分は含有されていないが、局 方に収載されており、ヨーロッパ等においても医薬 品としての使用実績があるため専ら医薬品と考 えらる。